

三 縫方順序

先づ紐丈の一端を巾五分位にくけ八寸迄の間に於て巾をいつばいになるやう斜にくけそれより端までいつばいの中に左右二本をくけ置く。次にたすきの巾も脇布につく方は二寸上り位ひに肩になる方は圖の通り折り山の方を折り込みて巾一寸二分位ひになし芯布は成るべく地質の厚きものを稍ゆるめにとちつけて後くけるなり。

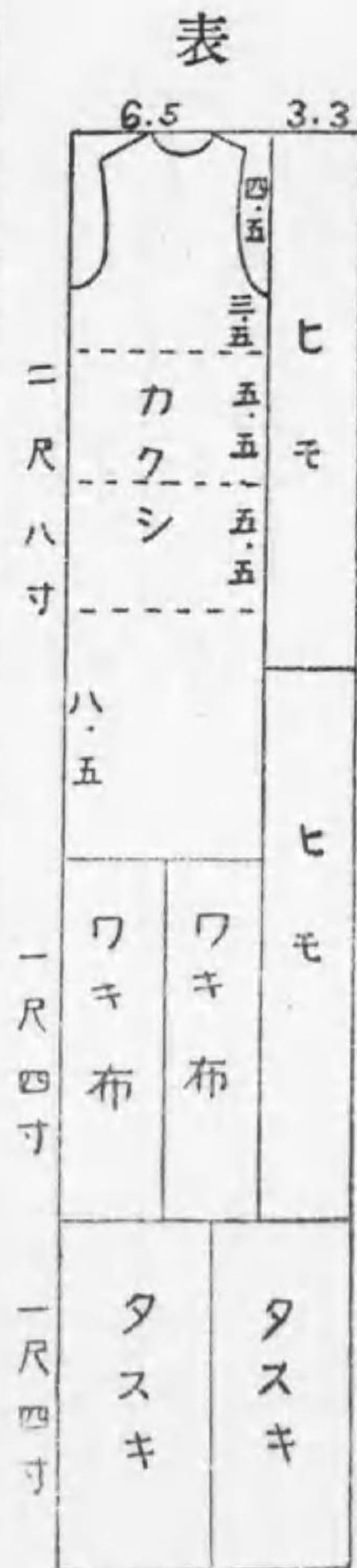
次に脇布の表にかくし布をつけ更に上に重なる方に笹べりをつけ尙上前の上部に時計などを入る、少なき横かくしをもつけ次に脇布の丈一尺三寸と合せ重ねて上部の斜の處にたすきの巾廣き方を返針に織ひつけ外圍りをも其糸にて馬乗明まで縫ひまわるなり此際紐は裾より六寸五分位ひ上りし處に狭みて縫ふ。

次は身頃の表布の圖解の通りかくしの底を表に折り上に重なる方に笹べり

をつけるなり此際芯布は二尺八寸の丈にきり表布に合せてかくしを重ね笹べりをとるなり。次に馬乗明より馬乗明まで身頃の裾を縫ひ次は左右の脇布を身頃の表裏にてはさみ返針に縫ひて腮より引返す次にたすきを脊をあやにして肩先きに合せ縫ひ次は腮をくけて笹べりを前と脇とにつけ、馬乗井にかくしに門留をなし仕上をなす。

四 裁方 江戸腹掛

用布 表 並巾 五尺六寸
裏 同 四尺七寸
芯布 同 一尺七寸



たすき、ひも、脇布、裁方京腹掛と同じ。

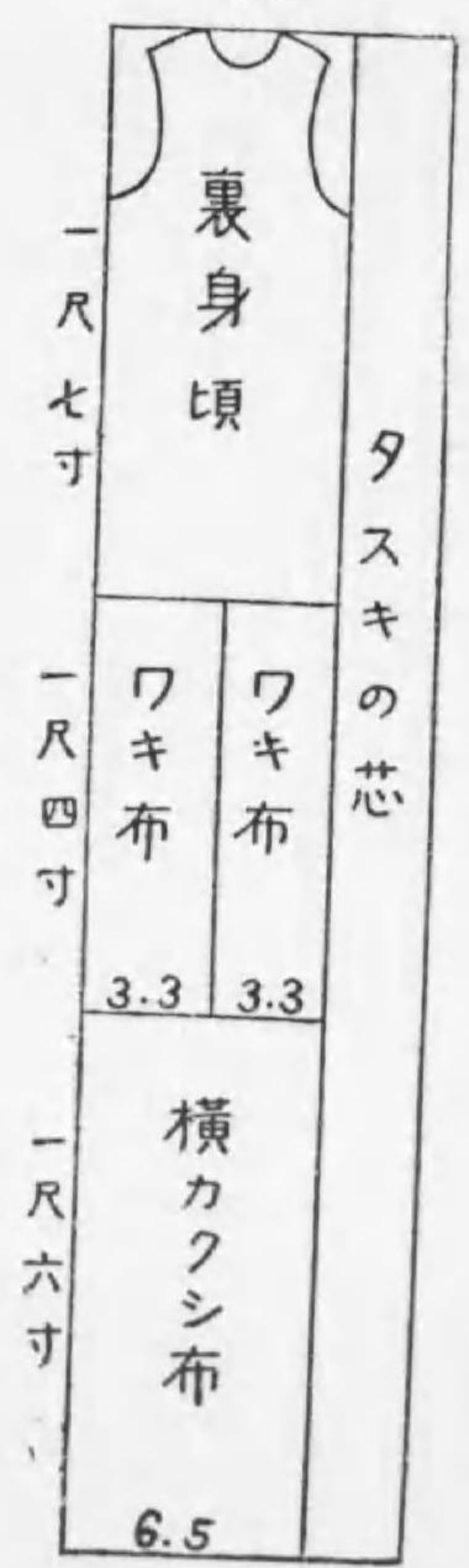
五 縫方

紐、たすき、脇布、凡て京腹掛と同じたゞ異なる點はかくしを（一名ごんぶり）表身頃に一つ縫ひ裏丈と重ね更に肩より八寸位ひ下りたる所に横かく

頃身表



裏



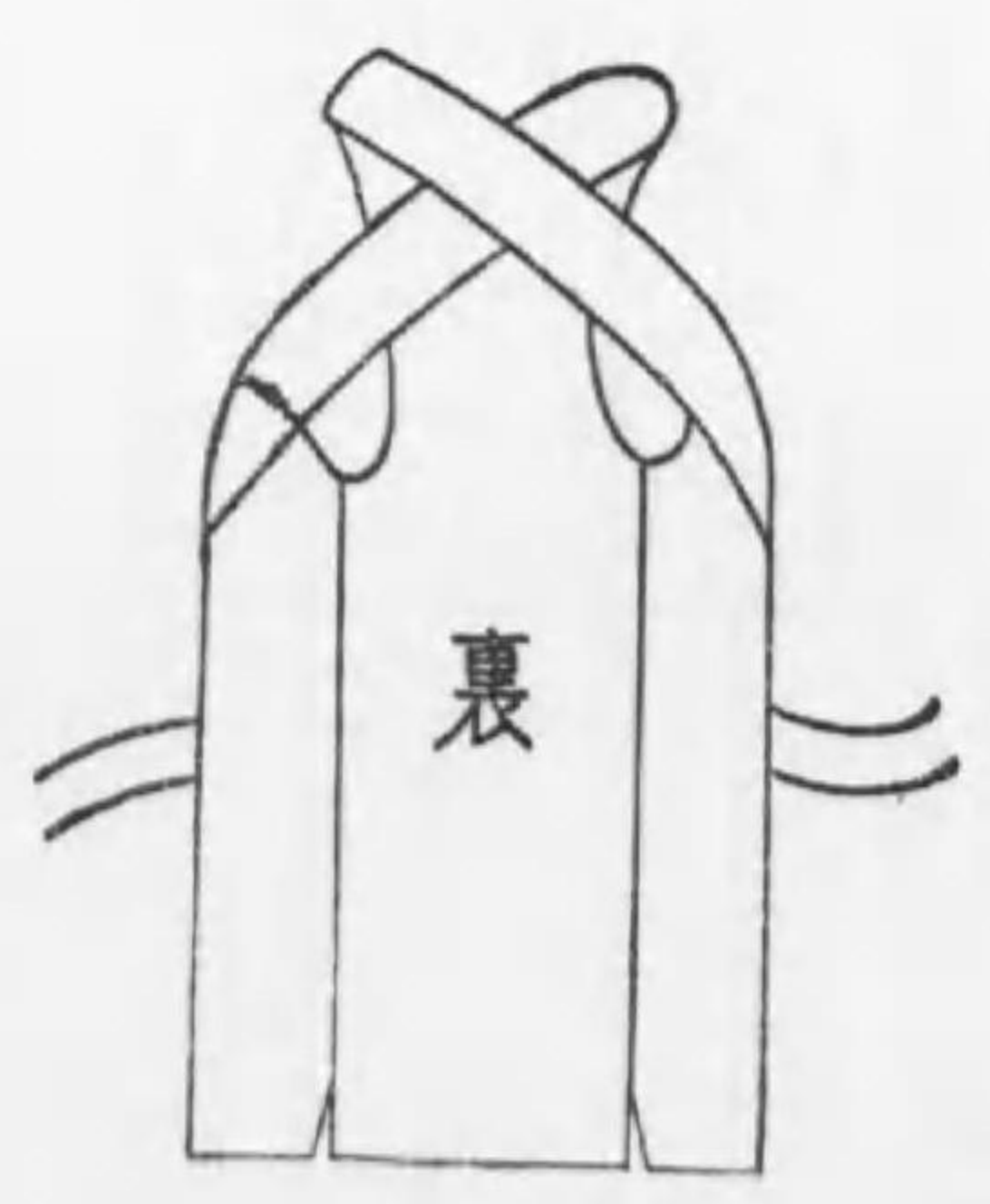
し布を縫ひ合せて（一名しのび）四寸の口明を定め脇布を身頃の表裏にてはさみ馬乗をあげて縫ひ、腮廻り并にたすきをも縫ひて裾より引返して拵けるなり此際身頃に二ツかくしをつくる場合は脇布丈は一尺三寸になして脇布にかくしを取らざる方よろし。

六 仕立上圖

前

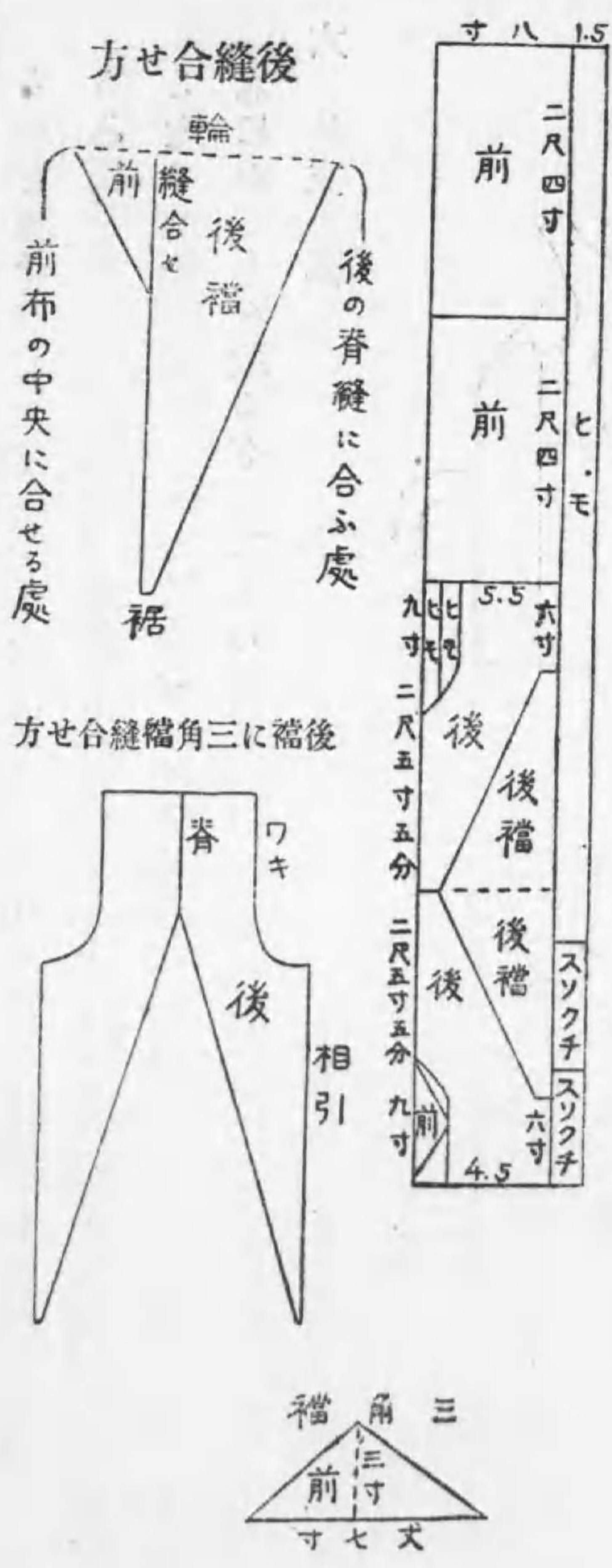


後



第十六章 雪袴

一 裁方 普通婦人用
用布 九尺九寸



二 縫方

先づ紐を前の分六尺位、後の分三尺五寸位を各中央一尺位ひ残して本拵けになし置き、次は後の脊を上より六寸縫ひ、折りは右手の方に返して隠躰をなし、次は後襠の山即ち左右の別れ目の直線の方に、丈七寸(長き方)の三角襠を圖の如く縫ひ合せ、襠の斜線の方を、後布の斜線の方に合せて縫ひ、折りは後布の方に返し、次は前布二枚を合せ上部になる方を上より四五寸縫ひ置き、相引を合せ、後布の脇明を左右三ツ折ぐけになして、後襠と前布を合せて縫ひ、折りは前布の方に返す。次は裾口にへりをこり、次は前巾の左右に二ツづ、浅き襷をよせて、脇明は巾一寸ばかり相引より斜線に折りて耳拵けをなし、前巾九寸位にして紐をつけ、次は後にも左右に二ツづ、浅き襷を寄せて、腰巾凡そ八寸位にして紐をつくるなり。

實用裁縫書終卷 (終)

實用裁縫書終卷附錄

第一章 衣服の目的及び調製上の注意

衣服の目的は、常に風雨寒暑を防ぎ、身體の保護のために着用するのみならずかねて容儀を整へ、品位を保つ上にも、また必要なり。

されば服地を選択するには、衛生と經濟と裝飾とに注意し、輕軟にして能く體温を調和するに適當なるものを選び、徒らに華美に流れず、清潔質素を旨とし、地位・身分・年齢又その季節を考へ、而して後に調製すべきなり。

第二章 服地の原料種類及び性質

第一 原料

植物性の纖維より成れるもの、動物性の纖維より成れるものあり。即ち

絹布・毛布は動物性纖維にして、綿布・麻布は植物性纖維より成れるものなり。

第二 毛布の種類及び性質

毛布には羅紗・カシミヤ・フランネル・セル・モスリン等あり。何れも織目疎にして、空氣を含むこと多き故に、体温の散放を防ぎ、外熱を導き入る、ここ少し。且つ皮膚より發散する水蒸氣を吸收する力を有し、而も之を放散するは徐々たるが故、肌に觸るゝも冷氣を感ずることなく、且つ軽くして軟かく、通氣性に富めるを以て、衛生上最良なる品にして、老人小兒等の衣服に適し、特に寒暑の變化多き季節に用ふる時は、直接冷熱を覺えず、實に衛生上有利なり。而して其の缺點とする所は、價高きこと、虫の害を受け易きこと洗濯にもまた容易ならざるにあり。

第三 絹布の種類及び性質

絹布の種類は、平織・縮緬・綾織・紋織・透織・錦・金縷・緞子・博多織等あり。是等は

生糸を精練・織染せしものにて、織目密にして空氣を含む量乏し。故に体温を保護する力少なく、外熱を防ぐに適せず。加ふるに乾燥し易きため衛生に適せざるのみならず、價も高くして、洗濯も容易ならざるが故、經濟上及び衛生上に於ては、共に綿布の比に非らざれども、其の長所は光澤よく、保存に堪へ、且つ軽くして優美なれば、晴着に適するにあり。

第四 麻布の種類及び性質

麻には生麻・晒麻・リンネル・上布等あり。いづれも濕氣を吸收する力強く、隨て之を發散すること、速なるのみならず、体温を奪ひ、能く外熱を導き、衛生上價值少なれども、光澤ありて、且つ洗濯に堪へ、眞夏の候の着用には軽くして冷し。されど、朝夕又は氣候の激變し易き時には、老人小兒は勿論大人にも宜しからず。

第五 綿布の種類及び性質

綿布には生木綿・晒木綿・無地木綿・縞木綿・白飛・綿縮・金巾・キヤラコ・寒冷紗・小倉織・綿フランネル等あり、綿布はよく洗濯に堪へ、價廉にして、通氣吸水は毛布に譲らず。されど重くして光澤少きため、晴着に適せず、一般に常服として用ふるに可なり。

第三章 衣服の保存法

衣服を保存し、衛生上、作法上、經濟上、共に其の宜しきをはからんと欲せば洗濯法・汚點拔法は勿論、取扱ひ方及び貯藏法に注意せざるべからず。元來晴着の衣服は、毎年一回若しくは二回必ず適當の時期に虫干をなし、疊み目には柔かき木綿類、若くは紙を丸棒の如くして、其の間に挟み置き容れ物の中には虫除けとして、樟腦或は固形フォルマリン、ナフタリン等を入れ置くべし。尤も樟腦は毛布類、毛織類には効多けれども、絹物には多少の害を與

ふるもの故、直接に衣服に觸れざる様心掛くべし。

第一 衣服のたゝみ方

衣服を脱ぎたる時は、よく塵を拂ひ、暫時衣紋棹或は衣桁にかけ、空氣に晒らして、身体より吸收したる汗瓦斯等の不潔物を發散せしめ、然る後、衿及び衣紋所に紙をあて、皺のよらぬ様、正しくたゝむべし。

第二 藏め方

襪及び袖口は、壓されぬ様に交互に入れ違へ、着物の間に羽織、襦袢等の類を挟み入るべし。

帯は概ね地質剛く、且つ重き故、衣服の上に置かぬやう注意すべし。又常着と晴着、及び足袋、紐類の如きものは同じ引出しに入れずして、別々に分ち入れ置くべし。

第三 衣服の容れ物

衣服を藏むるには、桐の箆筒を最も宜しとす。桐は軽くして持ち運びに便利なるのみならず、外部より濕氣を吸収する恐れなき故、内部は常に乾き居る故なり。其の外、衣服の容れものとしては、長持行李等ありと雖も、何れも一長一短ありて、行李は火災、其の他不時の災難の際は持運び輕便なれども、衣服に皺を生じ易く、長持は衣服の出し入れに不便なれば、主に夜具蒲團の如き容積の多き品を容るゝをよしとす。

第四 置き場所

容れ物を置くには、直接日光に觸れずして、空氣の流通よく、而も乾燥する場所を選ぶべし。尙鼠族の侵入を防ぐため、下に枕木を入れ置くべし。

第四章 衣服の整理法

衣服に黴又は汚點生じたる時は、速に之を除去し、又全体の汚れは洗濯し、

或は仕立替をなし、特に入梅期の前等は、一旦日光に曝らし。夫々整理するここ肝要なり。

凡て衣服は餘りに汚れ或は破れ、手入を怠る事なきやう注意を要す。若し之を怠るときは、地質を損じ、多くの時間と勞力を要すればなり。

洗濯につきて注意すべきことは、用水の選擇・色物の取扱ひ方・地質及び汚れの程度の見分け方、並に之れに要する洗濯劑の分量是れなり。洗濯水は雨水を最も宜しとす。之れに次ぎて河水、次は井水とす。雨水は純粹にして混合物なく、石鹼を溶解する力強し。之れを軟水といふ。

河水井水の中には、炭酸石灰分を含み居る故に、石鹼を溶解する力少なきのみならず、却て一部固るものなり。之を硬水といふ、硬水も一度沸騰せしむる時は、炭酸石灰分は湯垢となりて分離し、其の水は純粹たる軟水に變化するが故に、河水井水にて洗濯せんとせば、是非とも煮沸して使用すべし。色

物を取り扱ふには、色素に注意し、直接日光に觸る、様のことあるべからず。又洗濯せんとする時は、容器を別々になし、他の色の移らざるやうになし、之を乾すにも裏を出して陰干にすべし。地質を見分けるには、其の纖維を燃焼すれば、動物性は頭髮をこがすやうの臭氣を發し、無臭なる時は植物性なり。又交織物等を見定むるには、纖維を酸類の中に浸して、暫時置きて後取り出して乾すときは、植物質はもろくなり、動物性は更に變化するなし。毛と絹と綿との交りは、漂白粉の液中に布片を浸し置く時は、毛及び絹は黄ばみ色を呈し、綿は白くなるなり。人造絹は其の糸を割りて、水に濕すときは、表面の一部分だけ去る故、其の質脆弱となる、天然絹糸は乾きたる時も、濕りたる時も、強力に變りなければ、容易に之を見分けることを得るなり。

洗濯用劑は、灰汁・ソーダ・石鹼等の中を汚水の程度により適量に溶解したる液にて洗ふなり。又色の褪せる心配のある品は、稀薄なる酸例へば稀鹽酸の類を清水中に入れて、此中に洗濯すべき布を浸した後、洗濯の液をも稀薄にして洗滌すべし。(初巻附録參照)

小學校裁縫專科正教員檢定試驗參考書

新編裁縫教科書	上下二册	今村順子著	目黒書店發行
裁縫教授法	一册	同上	同上
作法教科書心得ノ部	一册	佐方鎮子 後閑菊野共著	同上
實地應用家事教科書	一册	志村千鶴著	開盛館發行

注意 家事教科書ハ衣服ニ關スル部分ヲ精讀スベシ尙作法教科書モ前同様ナリトス

山梨縣裁縫專科正教員檢定試驗問題集

○明治二十八年八月

- 一 布表裏八尺宛を以て拾小羽織片身を注文し且之を裁縫せよ。
- 二 表裏ある布を以て鍵衿とする際は注意及裁方如何。
- 三 女帯心のとち方の良法を述べよ。
- 四 常巾一丈の布を以て一つ身を裁つ時丈を二尺一寸とせば袖丈何程。
- 五 單衣縫方教授の順序を述べよ。

○明治二十九年六月

(技術四時間)

- 一 常巾八尺の布を以て單衣羽織を注文し且之を裁縫せよ。但し用布茶色の唐金巾
- (筆答一時間)
- 一 常巾一丈六尺の布を以て紐下の二尺六寸出來上りの小袴を裁んとするに如何なる裁方になして可なるか圖を以て示せ。

- 二 常巾一丈四尺の片面染の布を以て三つ身を裁つに袖丈一尺四寸になせば、身丈何程にして可なるか其の積り方及び圖を記すべし。
- 三 拾衣の縫方教授の順序を記せ。

○明治三十一年一月

(技術四時間)

- 一 常巾一丈の布を以て一つ身單衣を裁縫せよ。
- 二 五分の襪を仕立てよ。

(筆答一時間)

- 一 袖丈一丈五寸身丈三尺八寸衿下り五寸鍵下二尺の鍵衿裁服を裁つには總尺何程を要するかを詳記せよ。
- 二 常巾一丈三尺の布を以て三つ身を裁つの法を圖を以て説明せよ。
- 三 初歩の生徒に裁縫を教授するに當りては如何なる注意を要するか。

○明治三十一年七月

(裁縫一時間)

- 一 巾二尺一寸五分總丈一丈の片面物を以て男單衣羽織を裁つ法を示せ。
二 尋常三年より高等四年に至るまでの裁縫科教授細目を作れ。

○明治三十二年六月(専科と改稱す)

(裁縫科一時間)

筆 答

- 一 運針の必要及び其の教授上の注意を問ふ。
二 用布並巾一丈六尺あり、袖丈一尺四寸四つ身服を裁つ時は身丈何程となるや其の積り方及び裁方を問ふ。
三 鈎衿を裁つに片面物なる時は如何なる注意を要するか。

○明治三十三年七月

筆 答

- 一 尋常科三、四年裁縫科程度表を作れ。
二 木綿巾四尺の布を以て一つ身襦袢の裁方積方を記せ。
三 女服を裁つに袖丈一尺六寸、身丈三尺八寸にせば用布如何程なるか其の積り方及裁方を記せ。

技 術

- 一 四つ身單衣 身 但し二分の一。

○明治三十四年三月

筆 答

- 一 初めて衣服を教授するには如何なる順序方法を以てすべきや。
二 二丈七尺五寸の布を以て女服を裁つに袖丈一尺六寸にせば、身丈何程なるや其の裁方及び積り方を記せ。
三 巾二尺、長さ九尺のメリンスを以て四つ身被布を裁縫するに袖丈一尺七寸身丈二尺二寸にせば其の裏地何尺なるや其の裁方圖及び積り方を記せ。

技 術

- 一 男袴羽織左半身 但し二分の一。
二 綿入袖口。

○明治三十五年三月

(裁縫科技術四時間)

- 一 五六才女兒袴を仕立よ 但二分の一。
- 二 裕右袴(二分)

設 問

一 左の事項に就きての教授法を詳記せよ。

運計 つぎ方 はぎ方

- 二 二尺巾の布を以て二三才の小兒の衣服の上着一枚、下着廻りを裁つの方法を圖解すべし。
- 三 並巾を以て男單羽織の裁方及び積り方を圖解し仕上げの寸法を記せ。
- 四 一尺二寸巾を以て女長襦袢の裁方積方を圖解し仕上げの方法を記せ。

○明治三十五年七月

(裁縫二時間)

- 一 縫代及び着せの教授法を記せ。
- 二 一つ身筒袖を裁つに袖丈五寸五分身丈二尺三寸裁切にせば、表用布何尺となるか又右裏に裁つ裾廻並巾横切をつくるとせば胸の用布何尺となるか、右表裏裁方及積り方を記せ。
- 三 袖丈一尺四寸、身丈二尺五寸出來上りの男單羽織を裁んとせば、布何尺を要するや裁方圖及積り

方を記せ。

四 大人男袴の出來上りの圖を記し各部名稱及び出來上り寸法を記入せよ。

(裁縫技術三時間)

- 一 大人シャツ右袖を縫ふべし。
- 二 上前襷(襷一寸)

○明治三十八年七月

(裁縫技術三時間)

與ふる處の用布を以て單衣四つ身上前を縫ふべし 但し二分の一。

但し寸法は各自に定むべし、處定の寸法は與ふる處の紙に記入し成績に添へて出すべし。

○明治四十年 (前期)

一 設 問

(1) 並巾物を以て女物引返し上着一枚の表を裁つる用布何尺を要するか。

右裁方を圖解し積方算式を明記すべし。

(2) 本裁男物裕羽織の標付方。

右教案を作るべし。

二 技 術

- (1) 與ふる處の用材及材料を以て男袴の腰立を實物大にすべし。
- (2) 與ふる處の用布にシャツのあなかどりを二つなすべし。

○明治四十年 度 (後期)

設 問

一 車裁襦袢の裁方

右教案を作るべし。

- 二 本裁女物綿入被布を調製せんとするに用布の長さ並巾二丈九尺一寸なる時は裏地何尺を要するか但仕上げ寸法左の如し。

袖丈 一尺六寸

身丈 二尺六寸

- 三 カシミヤを以て大人物女袴一具を裁たんとす、用布何尺を要するか。

右裁方を圖解し積方算式を明記すべし。

技 術

- 一 與ふる所の用布にて六分の綿入の袴(上前下前)を縫ふべし。

- 二 與ふる所の用布にて男物袴羽織の左身頃を裁縫すべし 但し實物の二分の一

○明治四十一年 (前期)

技 術

- 一 與ふる所の用布を以て女物袴の左半身を實物の二分の一大に縫ふべし 但衽は實物大とす。

設 問

- 一 三つ身筒袖綿入羽織を裁たんとす、表裏の用布何尺を要するか。

右圖解し積方算式を明記すべし 但用布は片面物とす。

- 三 みぐぐけ 本ぐけ ひらぐけ かくしつけ あわせぬい ふくろぬい。

右圖解すべし。

三 腹合女物帯裁方

右教案を作るべし。

○明治四十一年 (後期)

設 問

- 一 本裁女單衣の標付方を記せ。
- 二 中裁シャツの裁方を圖解すべし。

技 術

- 一 本裁男單衣羽織左半身を實物二分の一大に縫ふべし。

○明治四十二年（後期）

設 問

- 一 高等小學校第一、二學年に於ける裁縫科教授細目の大畧を記せ。
- 二 並巾一丈八尺四寸の布を以て四つ身の被布合羽裁方を圖解し各部の寸法を記入すべし。
本裁單袴本十番の裁方積方を説明すべし。

技 術

- 一 男帶仕立方

與ふる所の用布を帶地表側及び心布となし、巾は實物の寸法より丈は三分の一として調製すべし。

設問の二

小學校教育の目的如何

注意 設問の二は別紙に認むべし。

○明治四十三年五月施行

設 問

- 一 衣服調製に就き心得べき事項を述べよ。
- 二 男兒着袴に就き仕上寸法並に裁方積方を圖解と説明せよ。
- 三 本裁男物拾羽織に就き教授寸法を述べよ。

技 術

- 一 與へたる用布を以て本裁女物綿入に於ける部分縫標本を製作せよ。

○明治四十三年十月施行

設 問

- 一 裁縫科に於ける一齊的教授法並に個人的教授の得失に就て述べよ。
- 二 中巾縮緬を以て無垢一枚を裁つに如何なる裁方によるべきか圖解と説明とをせよ。
- 三 左の事項に就きて説明せよ。

(1) 燒穴鉤裂の處置法

(2) 拾長襦袢の仕上寸法

技 術

一 本裁被布小衿の縫方附方を實物大に調製すべし。

○明治四十四年五月施行

教 育

一 小學校教育の本旨如何。

二 小學校に於ては何の教科目も其教授は兒童心身發達の程度に添はしめん事を要するの理如何。

裁縫科設問

一 中巾友禪染の縮緬を以て十才女兒の被布を作るに當り裁方、積方、仕立上寸法に就て述べよ。

（次に裏地を求むるには如何なる算式によるべきか。

二 左の事項に就きて如何なる處置をなすべきか。

(1) 衣服の襟垢、汗、血液、の附着せる場合。

(2) 同じく茶、インク、墨、のかぶりたる場合。

三 本科教授に際し材料の選擇及配當を如何にすべきか。

技 術

一 與へたる用布を以て單衣羽織前身頃の部分縫をなすべし。

○明治四十四年十月施行

教 育 科

一 兒童訓練に關する賞罰に就き注意すべき要項を擧げて之を説明すべし。

二 教授細目とは如何なるものかを説明し且其必要なる理由を述べよ。

裁縫科設問

一 小學校に於ける裁縫科の教授法を一齊的になさんとせば其の材料及び器具の準備を如何にすべき

や且又材料器具の不足なる場合は如何なる方法を以てなすべきか。

二 大巾(一尺七寸五分)の布を以て女大人物無垢上着並に下着廻り一枚を裁たんとす、積方裁方圖及寸法を記載すべし。

三 木綿類、絹織類、毛織類の洗濯法に就きて如何なる注意をなすべきか。

技 術

一 比翼綿入右袖口の縫方。

○明治四十五年五月施行

教育科

一 小學校教育の目的を述べよ

裁縫科設問

一 衣服裁方實習をなさしめんとするには如何に教授すべきか但時間は二時間とし仕立上寸法は前に教授しあるものとす。

二 一尺二寸巾二丈九尺の用布にて無垢一枚を裁たんとす、積り方裁方圖解を説明すべし。

三 絹布單衣を着して一日客に招かれ歸宅後の取扱に就き記載すべし、但六月初旬にて取扱は着物のみとす。

技術

一 男單衣羽織半身

○大正元年十月施行

教育科

一 智識教授及技能教授の方法を述べべし。

裁縫科設問

一 シャツ、ズボン下縫方の順序を記せ。

二 服裝に就きての注意を問ふ。

三 女物東コートを裁たんとす、裁方寸法を明記せよ、但巾は三尺六寸とす。

四 一齊的教授に就きて其の缺點を問ふ。

五 各種の蒲團の綿分量を問ふ。

技術

一 與へたる布にて單衣重ね袖(右)及び七分襷を縫ふべし。

大正二年五月施行

裁縫科設問

一 並巾の用布を以て十番馬乗袴を裁たんとす、用布總丈及圖解して説明すべし。

二 女物單衣被布合羽の縫方順序を問ふ。

三 裁縫の材料品に就きて如何なる注意を要するか。

技術

一 與ふる用布を以て一寸疵の褻及女物綿入羽織前身頃を縫ふべし。但綿は不用、衿心は同用布にて入る事。

教 育 科

一 教育の効果を制限する主なる事情を述べよ。

○大正二年十月施行

教 育 科

一 智識教授と技能教授との差異如何。

裁縫科設問

一 丸帯の仕立方を問ふ。

二 巾二尺長七尺五寸の用布を以て小裁被布を裁たんとす、裁切寸法仕立上寸法裁方圖を問ふ。次に一般羽織裏地丈を求むる算式を問ふ。

三 單衣襦袢標付を授けんとす、此の教案を作製すべし。

技 術

一 與へたる用布を以て男袴後腰立を實物大に糸かけをなし又五分疵右褻を調製すべし。

○大正二年五月施行

教 育 科

一 小學校教育の目的如何。

二 教授の形式とは何ぞや。

裁縫科設問

一 並巾用布を以て十番馬乘袴を裁たんとす、總丈の積り方及裁方圖を記せ。

二 裁縫科と他學科との關係を述べよ。

三 衿垢、墨汁、汗の汚點拔法を問ふ。

技 術

一 與へたる用布を以て大人被布小衿、大人綿入右袖口、及五分疵右褻を調製すべし、但寸法は實物大とすと雖も袖丈袖巾は隨意たるべし。

○大正三年十月施行

教 育 科

一 小學校令第一條の要旨を説明せよ。

二 (イ) 實物教授 (ロ) 個人教授 (ハ) 個性觀察 右説明すべし

裁縫科設問

- 一 被布、道行、合羽、羽織の四種に就き其の疊み方の異なる點を問ふ。
- 二 三尺巾と二尺巾の各用布を以て女物袴無袴を裁たんとす、各用布總丈裁切寸法並に裁方圖を記せ。
- 三 裁縫科細目調製上の注意を問ふ。

技 術

- 一 女物袷衣右前後の片身頃を二分の一大に調製すべし、但衿は廣衿とす。裁合せの際肩山に接ぎを出すも可なり。

○大正四年五月

教育大意

- 一 小學校令第一條の國民教育の意義を説明せよ。
- 二 兒童訓練の必要につきて述べよ。
- 三 左の説明を附せ。

(イ) 個人指導

(ロ) 机間巡視

(ハ) 低能兒の救済

裁縫科設問

- 一 並巾二丈四尺五寸の用布を以て十番馬乗袴を裁たんとす、其の裁方を圖解し且寸法名稱を記入せよ。
- 二 男物揚げの位置及衽に揚げをなす場合且女物に内揚をなす場合の位置を問ふ。
- 三 裁縫科に於ける教材選擇上の注意を述べよ。
- 四 普通仕立屋に於ける裁縫教授の目的と小學校に於ける裁縫教授の目的との異點を述べよ。

技 術

- 一 與へられたる用布を以て女物袷羽織右半身と三分の上前褌とを調製すべし。但羽織の寸法は實物の二分の一

○大正四年十月

技 術

- 一 與へられたる用布を以て本裁女物袷左半身を裁縫せよ。但し實物の二分の一。
- 裁縫科設問
- 一 小學校に於ける成績考查は如何になすべきか。

二 用布片面物一丈三尺五寸にて袖丈六寸上りの三ツ身を裁つべし、但各部裁ち切り寸法、裁方圖及び仕立上寸法を明記すべし。

教 育

- 一 教授上示範の必要なる所以を述べよ。
- 二 左の意義を問ふ。

- 一、机間巡視
- 二、一齊教授
- 三、個人指導

○大正五年五月

設 問

- 一 腹合帯を仕立つるにつき注意すべき諸點を述べよ。
- 二 十番馬乗袴を紐下二尺三寸五分の仕上げにせんとす、總尺何程を要するや其積方を明記し且裁方圖解をなし寸法名稱を記入せよ。
- 三 裁縫科の訓育上に及ぼす影響如何。
- 四 小學校に於ける兒童裁縫用具につき注意すべき點を述べよ。

技 術

一 與へられたる用布にて男物單衣羽織左半身及び上前五分褌を調製すべし。但し羽織は實物の二分の一。

教 育

- 一 左の意義を説明をなせ。

- イ 訓練
- ロ 養護

- 二 教授の形式的目的とは如何なる意味か之を説明すべし。

○大正五年十月

設 問

- 一 幅一尺丈一丈一尺三寸五分のメリンス有り之にて仕立上、袖丈八寸、身丈一尺八寸の小裁被布を裁たんとす。其裁ち方を圖解し且各布の名稱及各丈幅の寸法を記入せよ。
- 二 子供物の肩揚腰揚の位置及其方法を述べよ。
- 三 小學校初學年に運針の方法を授くるにつき注意すべき事項を述べよ。
- 四 裁縫科に於ける机間巡視につき心すべき點を述べよ。(以上二時間)

技 術

- 一 與へられたる用布にて男物袴羽織左半身を調製すべし。但實物の二分の一（以上三時間）
○大正六年五月（提出者御館たす）

設 問

- 一 大人袴腰板の裁ち方及び腰布貼り方の順序方法を圖解し且注意事項を記せ
二 長着の袴付につき注意すべき所及其方法を述べよ。
三 標本製作及同取扱ひにつき各自の意見を記せ。
四 裁縫科に於て教授上最も注意すべき事項二つを記せ。（以上二時間）

技 術

- 一 與へたる運針用布にて十分間運針をなせ。
二 與へられたる用布にて男物單衣左半身を調製すべし。（以上三時間）
○大正六年十月

設 問

- 一 巾九寸七分、丈一丈七寸の片面物あり今之れにて仕立上袖丈七寸五分、身丈一尺七寸の三ッ身被布を仕立んす。其積り方を示し裁ち方を圖解し且寸法名稱を記入せよ。

- 二 裁縫教授にて注意すべき事項中最も大切なること二ヶ條を明記せよ。

技 術

- 一 運針用布巾二つ折にて正五分間運針をなせ。
二 與へられたる用布にて元祿袖四つ身拾右半身を調製すべし。但し實物の二分の一
注意 袖口布は裏袴の残りを利用せし（以上三時間）

○大正七年五月

設 問

- 一 長さ一丈三尺七寸五分、幅九寸八分のメリンスあり今之にて仕立上身体丈二尺七寸の三ッ身單衣を元祿袖にて裁たんとす裁方を圖解し寸法名稱を記入せよ。
二 衣服をして出來得る限り永く保存使用にたへしむるには如何なる點に注意すべか。
三 裁縫科の教授材料（兒童用）及兒童用具の容易に整はざる土地に於ては如何なる方法を取るべきか（以上二時間）

技 術

- 一 與へられたる用布にて男物拾右半身を調製すべし。但し寸法は實物の二分の一（以上三時間）

○大正七年十月

設問

- 一 仕立上袖丈一尺五寸、身丈二尺八寸の單衣男羽織を仕立てんとす用布何程を要するか且其裁ち方を圖解し寸法を記入せよ。
 - 二 衣服の保存上注意すべき諸點を述べよ。
 - 三 現今小學校に於ける裁縫料の缺點と思ふ所を記し且其救濟法を述べよ。(以上二時間)
- 技術
- 一 與へられたる用布にて單衣男羽織仕立上袖丈一尺五寸身丈二尺七寸の左半身を調製すべし。但し寸法はすべて實物の二分の一に製作すべし。(以上三時間)

實用裁縫書終卷附錄終

大正十二年五月十五日印刷
大正十二年五月二十日發行

實用裁縫書

卷終

著者 伊藤 うた

不許

東京市麹町區内幸町一丁目六番地

發行兼者 金港堂書籍株式會社

代表者 原 亮一郎

複製

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所 活文舎

定價金九十五錢

發賣所

東京市麹町區内幸町一丁目

振替貯金口座
東京八八一五番

金港堂書籍株式會社

284

55

終

